

1. はじめに

最先端の花弁農業技術を視察し、その活用方法と流行品種等を理解し、その体験を、教育現場に取り入れることによって最先端の技術での指導を行うことを狙い、今回は静岡県が全国生産量上位にあるバラの栽培技術を重点的に視察することにした。

上記のねらいから、教員産業視察の見学地を静岡県内から選出し、①切りバラ栽培が盛んな島田市に平成4年に開園し、敷地に約360種、8700株の世界各地のバラが植栽されている「島田市バラの丘公園」、②富岳館高校とほぼ同じ気候の御殿場市にある「芹沢バラ園」、③個性溢れる12のガーデンが点在する「アカオハーブ&ローズガーデン」、④パリ市にある「パリ・バガテル公園」の姉妹園として2001年にオープンした「河津バガテル公園」、⑤消費者に合わせて50品種の切りバラを生産している「高山ローズ」を選定した。

2. 現地視察報告

①島田市バラの丘公園

平成30年1月17日に視察を実施した。この日のバラの育て方講習に参加した。題材は「冬の剪定」であった。冬の剪定は、樹全体を1/3程度にして、次の春に充実した花を多く咲かせるために行うものであった。

②芹沢バラ園

平成30年1月20日に視察を実施した。実際に経営者の芹沢直己様から話を聞いた。今作から養液水耕栽培を行っており、培地はロックウールを使用していた。栽培方法はアーチング法とハイラック法を組み合わせた方法であった。

流行のバラは、少し前までは巨大輪であったが、海外から品質の良いものが入ってきているので落ち気味である。新品種の中ではイングリッシュローズ(キャラメルアンティーク)が流行ってきている。既存の品種ではサムライ(赤)が使いやすく、バラらしい咲き方をするので人気が高いとの事であった。

③アカオハーブ&ローズガーデン

平成30年1月25日に視察を実施した。今の時期はバラがほとんど咲いておらず、平日ということもあって人が疎らであった。集客のために菜の花を播いたり、スイセンを植えたりしてあった。バラの管理は他の民間企業に任せているとのことで詳しい話は聞けなかった。園内のバラの半分程度は剪定されていた。

④河津バガテル公園

平成30年1月27日に視察を実施した。この日の春バラ剪定講習会に参加した。題材は「冬の剪定」であった。講習会終了後、話を聞くことが出来た。流行のバラは青・黄色で、ここ1～2年はレトロチックなアンティーク系の人気があるとの事であった。

⑤高山ローズ

平成30年1月27日に視察を実施した。代表取締役の高山隆様から話を聞いた。栽培しているバラの品種は50種あり、毎日10本以上採れる品種は32種ある。養液水耕栽培を行っており、培地はロックウールを使用していた。栽培方法はアーチング法を行っていた。

2年ほど前からバラの直売やアレンジメントを直売するようにした。これらをはじめた理由は2つあった。1つ目は農業だけでは経営に無理を感じたことだ。東日本大震災の影響でバラの単価が落ち、今後上がることはないと考えた。2つ目は消費者に行き渡るまでのタイムラグをなくすためと言っていた。市場などに出荷してしまうと、消費者に行き渡るまでに日数が経ってしまい、傷が増えたり水上げが悪くなってしまうことがある。実際にはもっと日持ちするはずなのに、日持ちしないというイメージを持たれてしまうのは生産者として残念である。そういうイメージを無くすために直売をするようになったとの事であった。

今後の農家は自分自身が強くないと売り込めない。自分達のブランドを作ったり、消費者が求めているものを作ったり、良い物を作って様々な所に出荷したりと色々な形がある。どんな農業をやりたいかでその人のとる行動が変わってくる時代だとの事であった。

3. 最後に

今回の視察でバラの栽培管理の技術を実際に体験でき、技術が上がった。それだけでなく、今後農業はどのような経営を行っていくのかを生徒に考えさせ、またその選択肢の幅を広げられる知識が身に付いた。今後の教育現場に積極的に取り入れていこうと思う。

